

平成26年2月18日

熊本市長 幸山 政史 様

熊本競輪活性化検討委員会
会長 星合 隆成

熊本競輪活性化検討委員会の検討結果について（報告）

熊本競輪活性化検討委員会において競輪事業の活性化に関する意見の聴取、
交換、検討を行った結果を以下のとおり取りまとめ、報告いたします。

目次

はじめに	3
熊本競輪事業の活性化策.....	4
1 基本的な考え方	4
2 熊本競輪活性化のための5つの取り組みについて.....	4
(1) 本業	4
(2) ハードウェア.....	5
(3) イメージアップ	5
(4) 副業	6
(5) ビジネスモデルコンテスト.....	7
3 その他の意見	7
(1) 本業	7
(2) ハードウェア.....	7
(3) イメージアップ	8
(4) 副業	9
(5) ビジネスモデルコンテスト.....	9

はじめに

熊本競輪場は、昭和25年の開設以来、63年間にわたり市民のレジャー施設として親しまれ、これまで約656億円を熊本市一般財源に繰り入れるなど、市民生活の向上に大きく貢献してきた。

しかしながら、近年は売上の減少、来場者の減少と高齢化、施設の老朽化など、多くの課題を抱えているという状況にある。

このため、本報告書においては、熊本競輪が抱える課題を「本業」「ハードウェア」「イメージアップ」「副業」の4つに分類し、それぞれについての解決策を提案している。加えて、競輪場としては全国初となる、地域コミュニティブランドの手法を取り入れた熊本競輪活性化ビジネスモデルコンテストを実施し、潜在的な競輪ファンを掘り起こすことのできる施策として提案している。

今後は、熊本市競輪事業において本委員会の提案についてその有効性を検証するとともに、可能な限り実現することで熊本競輪場活性化につなげ、「熊本モデル」として全国に発信していただければ幸いである。

熊本競輪事業の活性化策

1 基本的な考え方

売上の減少、来場者の減少と高齢化、施設の老朽化などの課題を解決するために、「本業」「ハードウェア」「イメージアップ」「副業」の4つの視点に基づく施策に加えて、新たなマーケットの開拓を目的とする施策を実施していく必要がある。

2 熊本競輪活性化のための5つの取り組みについて

(1) 本業

車券購入の増加すなわち売上向上のための喫緊の対策として下記の取り組みを行う必要がある。

ア 本場レースの土日開催

若者やファミリー層など、高齢者以外の顧客拡大のため、可能な限り土日祝日に本場レースを開催し、競輪の迫力をライブで観戦する機会を提供する。

イ モーニングレース開催

他のレジャーがスタートする前の午前9時前からレースを始め、インターネット等での車券発売増加による売上向上を図る。

ウ ナイター場外車券発売

夜の社交場としての賑わいを発信し新規顧客を獲得するため、ナイターによる場外車券発売を実施する。ナイター本場開催については、照明設備の新設コストや周辺地域への騒音や渋滞等への懸念を踏まえ、継続検討とする。

(2) ハードウェア

ハードウェア（施設）の面から、安心・安全な事業実施の確保や、魅力向上を図るため、下記の取り組みを行う必要がある。

ア 施設改修の方向性

現在実施しているトイレ美化改修に加えて、今後はバンク改修や耐震化等の大規模改修、分煙やロイヤルユーザー向け特別観覧席の整備、女性や初心者ファミリーなどの居場所確保、公園という特性を活かした交流の場所作りなど、施設の魅力アップの視点を持って施設改修を行っていく。

イ 基金の創設

耐震化や施設の老朽化に対応するための基金を創設し、必要な資金を積み立て、計画的に施設整備や改修を行っていく。

(3) イメージアップ

先行投資型で将来的に収入増加につながるもの、社会貢献を目的とし競輪場の存在価値をアピールするもの、従来のマーケティングなどを一層工夫するものなど、イメージアップのための次の取り組みを同時並行的に実施していく必要がある。

ア 先行投資型

自転車業界や地元企業スポンサー獲得など他団体や企業との連携強化を行うとともに、特別観覧席を増席し高付加価値サービスを実施するなどロイヤルユーザーへのサービスを充実していく。

イ 社会貢献

現在実施しているフリーマーケットやデジタルアワードなどのイベントの拡充に加えて、今後は若者へのステージ提供や、子供向け自転車コース等の子供の遊び場設置、自転車競技や趣味のサイクリングをサポートする自転車ファンクラブの組織化、小中学生の自転車競技チームの組織化、災害時の避難場所としての利用など、市民のふれあいの場、サイクルライフの支援の場として多目的に競輪場を活用していく。

ウ マーケティングの充実

現在実施しているCMやファンサービスに加えて、競輪ツアーや来場者紹介キャンペーンの実施など、競輪場の魅力をダイレクトにアピールする従来のマーケティングも一層工夫しながら実行していく。

(4) 副業

熊本競輪場のハード資産を有効活用するため、下記の取り組みについて収支見込等を精査しながら実施していく必要がある。

ア 駐車場の有料化

ゲートの設置や管理委託等を行った場合の収支見込を精査しつつ検討を進める。

イ 施設の有料貸し出し

バンク自体やバンク内周部分のスペース、競輪選手宿舎（学生の合宿としての利用を想定）、サービスセンター会議室、特別観覧席等の一般への有料貸し出しを検討すべきである。

(5) ビジネスモデルコンテスト

地域コミュニティブランドという新たなマーケティング手法・ブランディング手法を用いた競輪場活性化ビジネスモデルコンテストを実施し、現在「競輪には関心を持たない層」が自然に熊本競輪に関心を持つことによる新たなマーケットの開拓に取り組む必要がある。

3 その他の意見

上記の5つの取り組みは競輪活性化事業の柱としてまとめたものであるが、それらを補完する取り組みのアイデアとして、次のとおり具体的な意見が出された。

(1) 本業

- 海外からの集客を企画する。
- レースの発走時刻の間隔をもっと短くし、テンポ良く車券を購入し、レースを観戦できるようにする。
- 競輪をわかりやすくするために単勝車券を復活させるような賭け式やルールの変更についても JKA 等の競輪実施団体に進言していく。
- 競馬の例を見れば相応の負担を払ってでも高品質サービスを得たいという顧客は存在するのであるから、競輪場でのロイヤルユーザーへのサービスは期待以上のものを提供する。

(2) ハードウェア

- 特別観覧席はメインスタンド 2 階と区別がなく魅力が感じられないことから、もっと「特別」なサービスと雰囲気を持たせる。
- 将来的には競輪場を取り囲む塀をなくして誰もが親しみを持てる公園のような施設を目指す。

(3) イメージアップ

- 場内で寝ている客など、マイナスイメージをもたらす状況を改善していく。
- 女性客の獲得のためにレストランの雰囲気や調度品等にも配慮していく。(パイプ椅子とテーブルが置かれた食堂には女性は魅力を感じないため)
- 来場者へのティッシュやお茶の無料提供や、入場者数に比して多すぎる椅子数のように、競輪場はサービスをしすぎているきらいがあるため、もっと必要なところに投資を振り向けるべきである。
- 自宅での利用のためにティッシュを要求したり、お茶を自分の水筒に移して持ち帰るなどのマイナスイメージとなる行動の是正のために、ティッシュ配りを廃止し、お茶やお水は最低限度の提供とする。
- 制服にもっと統一感を持たせる。
- サービスセンターでの託児サービスを検討していく。
- テーマパーク的な施設を目指すのであれば、単発の夏祭りについてはそのあり方を見直し、地域参加型など他のテーマ性を持った夏祭りやニーズのある他のイベントに変更する。
- デジタルアワードの作品であるバーチャル競輪ゲームは競輪のシミュレーションゲームであるのでイメージアップのために活用していく。
- ロアッソ熊本や熊本ヴォルターズをはじめとする熊本のプロスポーツ団体との連携を強化し、市民県民へのアピールをしていく。
- 競輪の企画段階から若者を巻き込む工夫をしていく。

(4) 副業

- バンクの利活用では選手の練習や高校生の競技大会などを考慮して対応していく。
- 駐車場の有料化の検討に当たっては、陸上競技場や野球場での大規模大会を想定し一体的な利用計画も併せて検討していく。
- プールの有料化については社会貢献の意味合いが強いため当面無料にて継続する。
- 競輪場施設の屋上を利用した太陽光発電事業者への有料貸し出し（屋根貸し）を検討していく。

(5) ビジネスモデルコンテスト

- 単にアイデアが寄せられるだけでは実施する意義も薄いため、地域コミュニティブランドの概念を用いることでビジネスとして成り立つ提案が多く寄せられるようコンテストの募集に工夫を施す。
- これまで競輪関係者中心で進められて来た活性化の議論から視点を変えて、地域コミュニティブランドの理論に精通した学識経験者等の意見も取り入れていく。

活性化委員会 開催日程

- 第1回 平成25年7月16日(火) 午後2時30分
 第2回 平成25年10月2日(水) 午後2時
 第3回 平成25年11月20日(水) 午後2時
 第4回 平成26年1月15日(水) 午後2時
 (会場 熊本競輪場サービスセンター2階会議室)

委員名簿

委員を構成する職	職名	委員名	役職等
学識経験者	崇城大学 情報学部教授	星合 隆成	会長
中小企業診断士	中小企業診断士	奈須 悦雄	副会長
一般社団法人 日本競輪選手会 熊本支部	支部長	小西 浩一郎	
公益財団法人 日本自転車競技 会 西日本地区本部	本部長代行 執行理事	一瀬 安弘	
公益財団法人 J K A 企画・施行者対応・競輪事業部	次長	後藤 慶一郎	
競輪場通り 商栄会	会長	原口 誠一	
地元自治会代表	帯山西校区3町内 自治会長	村上 博	
一般社団法人 熊本青年会議所	理事長	鎌田 剛	
公認会計士	南九州会熊本県部 会公認会計士	久峨 ゆりか	
一般公募	一般	松江 慎太郎	
施設管理専門員	造園施行管理技士	松本 秀和	